



## コミュニティバスに乗ってみませんか

小栗山敬子

・「市川市北西部にコミュニティバスを走らせる会」が発足して6年、その間に市の交通計画課と何度も話し合いを重ね、京成バス会社や市川警察との実地調査も繰り返して検討してきました。その結果、昨年10月1日から北西部コミュニティバスの実証実験運行がスタートしました。当初私たちが念願していた博物館や、西部公民館、国府台病院を回るルートが諸事情により無理だということになり、北国分駅と矢切駅を結ぶ短いルートになってしまいました。

車両が小さく、運賃も高いため、またコロナ禍の影響もあり、利用者が少ないことから本格運行へ移行することが難しい状況です。道路幅が狭く、ワゴンタイプの車両しか使えない為、24人乗りのバスに比べて12人乗りのバスでは採算がとれないのは当たり前のことです。このバスで採算を取れるようにするためには、運賃は200円にせざるを得ないということですが、道路幅が狭いのは地域住民のせいではないはずです。

市川市の北東部と南部のコミュニティバスは、運行距離が長いにもかかわらず運賃は160円です。たった3.4キロメートルしかない北西部ルートが200円と言うのは高すぎるのではないのでしょうか。100円が妥当だと思いますが、せめて150円にしてもらってもっと利用者も増えるのではないかと思います。

「買い物に利用したいと思っても往復400円では高いので我慢してしまう」

「国府台病院まで200円と言うのなら納得できるけどね」

「本数が少ないので帰りの時間まで待つのも大変だから不便よね」

という声も聞かれます。でも中には、「このバスが走ってくれて本当に助かっています」という方もいらっしゃいます。

8月から国福大市川病院（旧化研病院）内にバス停が設置され、利用者も少しずつ増えてきているそうです。また、バスの時刻表も北国分駅始発が5分早くなり、終着も30分遅くなってきています。京成バス会社も運転手の確保や就業時間を考慮しながら努力して下さっています。地域の皆さんの利用者が増えてくればさらに改善してもらえるのではないかと思います。しかし、今年はコロナウィルスの感染対策のために、市の財政も厳しくなっている状況で、来年2月の予算議会で廃止されるかもしれないと言われています。

市役所でも「北西部地域は市川市内で一番高齢者率が高く、交通不便地である」という認識でいます。「便利の良い中心部と、同じように税金を払っているのに、いつまでも不便を強いられるのはおかしい」という声も聞かれます。

せっかくバスが走ってくれるようになったのに、このまま廃止されてしまうのは残念です。もっと皆さんに気軽に乗って頂けるようなコミュニティバスにしていけるために、引き続き次の点を市に要望していきたいと思っています。

- ① 運賃を下げて欲しい。
- ② 国府台病院まで延長して欲しい。
- ③ 本数を増やして欲しい。

＊新しい小塚山公園の工事も着々と進んできていて完成するのを楽しみにしています。この緑豊かな北西部地域が、市川市民の憩いの場になってくれるのではないのでしょうか？そして可愛いコミュニティバスが人々をつなぎ、夢を運んでくれるのではないかと期待しています。どうぞ皆さんのご利用をお願い致します。

---

## 小塚山新公園について

佐々木陽子

<sup>どうめ</sup>道免き谷津であった所の外環道路沿いに工事が進められている新公園ですが、北国分の方々はよくご存じだと思います。大小の樹木が植えられ、歩道が造られ、水が流れる水路のような物もできつつあります。どんな公園になるのか期待している方も多いでしょう。

私は、9月28日の市議会一般質問で、清水みな子市議がこの新公園について質問することを知り、新庁舎にできた市議会の傍聴に行ってきました。

コロナ禍での避難のあり方、コロナ禍での学校教育（特に少人数学級について）などの質問に続き、最後に公園整備についての質問がありました。

小塚山公園がどんな公園なのか、完成までのスケジュール、管理棟の内容などについて清水市議は質問しました。

今工事が進められている場所（第一工区）は来年3月に完成して、4月から開園する予定です。出入り口は12か所あり、出入りは自由です。駐輪場（18台）、駐車場（10台）、別の場所に大型バス4台が駐車できる臨時駐車場ができる予定です。その他、多機能トイレや管理棟が建てられる予定ですが、管理棟は来年度以降工事をする予定で、事務所や倉庫、トイレ、2つの研修室が造られます。

私達が公園の計画を住民と市側で話し合いをした時には、公園の中に集会所は造らないと言っていました。新しく造られる研修室がどのように使われるのかはまだはっきりしていません。地域の方が気軽に使えるようになればいいなと思いました。この公園が市民の憩いの場、住民の集える場になってほしいと思います。より良い公園にするため、要望などを市に届けていきましょう。

# 進歩の無い道路行政

石居隆行

## 調布市住宅街で道路陥没事故

皆様ニュースでご承知のとおり、10月18日調布市の住宅街で道路陥没事故があり、直下で外環道路トンネル工事が1か月前から行われており、その際周辺地域では、外壁の落下、亀裂、地盤沈下、騒音振動等の被害報告がありました。事が起こる前に、事業者は解決に向けた対応は何もしてこなかったそうです。西側のトンネル工事周辺住民の方々も、私達千葉県区間同様何年にも亘り、道路の構造及び工事の危険性に対し、裁判をはじめ事業者側に訴えかけてきました。

## 北千葉道路の建設計画が着々と進行中

東京外環道路は既に千葉県区間は開通し、地元住民にはその恩恵どころか地域の破壊をもたらしました。そして更に北千葉道路の建設計画が着々と進行中です。今年7月初旬には、事業者側の環境影響評価準備書に対する答申が千葉工业大学村山和仁教授を委員長とする委員会から示されました。私も共感します答申の中の重要なキーワードは、騒音及び超低周波音並びに振動、外環道及び298号線も考慮して大型車混入率を適切に設定の上、改めて予測・評価せよ、バックグラウンド濃度（予測対象道路以外の発生源全てに由来、将来の土地利用及び排出規制の状況等も考慮）改めて予測・評価せよ。予測手法は、特殊部に対しても2019年の最新モデルを用いよ。また、水質、水位、地盤沈下、動植物生態系にも詳しく触れています。※答申の詳細は、HPに貼付けましたので御参照ください。

本来、この答申の指摘を受け準備書を改善し、正式な環境影響評価書を作成するようですが、少しの文言が付け加えられた程度で答申の内容は反映されていないようです。先日、私が過去の資料を整理している際、20年前の外環反対連絡会高柳代表が当時の堂本千葉県知事に対し申し入れをした文言にもこれらの基本的な事項が要望として述べられています。その後の公害調停等、事あるごとに再三再四同様に繰り返し訴え掛けてきましたが、数十年かけても事業者は一向に聞く耳を持つ姿勢が見られません。全く進歩がありません。住民の要望の反映されないまま、また外環道と同じような北千葉道路が建設され北千葉ジャンクションに接続されます。同じ事の繰り返しです。

皆さん本当にこんな事で良いのでしょうか。

ベルクス裏から外環道へ市川 3.4.12 号北国分線がほぼ出来つつあります。博物館側道から操車場方向へ車両は、298号線を垂直に通らないと行けなくなりました。これも地域分断です。更に交差点改良工事が始まります。ちょっと見ただけでも、あの辺に物流関係車両の施設が出来そうな気配を感じるのは私だけでしょうか。小塚山拡充整備（道免き谷津）が工事中です。次頁に道免き谷津の変遷を掲載しました。鳥の目で空から北国分を俯瞰して見て下さい。いつの間にかアスファルトとコンクリートで緑のまちが覆われつつあります。新型コロナウイルスは、環境破壊をし続ける人類に対する天の意志かもしれませぬ。

## どうも 道免き谷津水辺公園の構想をふり返って

「緑のまち」 編集部

「緑のまち」 1993年 9月号より

10年ほど前の道免き谷津は水田中心の農地でした。春先には名も知らぬ水鳥が、2羽、3羽と谷津に降り、餌をついばみ、やがて堀之内貝塚の森へ飛んでいく光景をよく見かけたものでした。

早苗の頃の蛙の大合唱。蟬が一斉に鳴く夏でも、市街地より3℃～5℃涼しいのがこの地の特徴です。収穫の季節を迎え、たわわに実った稲穂の波は、谷津伝いの曲がりくねった小径と溶けあって独特の美しさを感じさせたものです。

「緑のまち」 2001年 11月号より

市川市は9月議会で道免き谷津の農地に“広場”をつくる計画を立て、その測量費として1500万円の予算(19,000㎡分)を計上しました。これは外環を通すための小塚山緑地(約7,000㎡)と小塚山市民の森(37,000㎡のうち、8,000㎡)と同規模の面積です。

この小塚山の森は1973年に、宅地開発のため無断伐採している土地所有者の行為を住民がやめさせ、森を守る署名運動を繰り広げてきた結果、市が13億円ほどで買い取ったものです。

「緑のまち」 2002年 1月号より

市川市は昨年12月、唐突に北国分外環対策協議会に、道免き谷津公園構想について意見を求めてきました。その財源を聞いてみると、小塚山市民の森を国土交通省に売却したものを充当させるということでした。

道免き谷津を水辺公園に復元させることは賛成です。元来谷津田であったものを埋立てた為、蛍も消え、湿地植物も埋められてしまいました。問題は外環建設のために小塚山を壊し、その代替地としての用地を取得し、水辺公園にしようとしていることです。

「緑のまち」 2002年 7月号より

市川市は小塚山市民の森を19億円で国土交通省に売却することを6月議会で決議しました。市はすでに「道免き谷津水辺公園」の構想を立ち上げ、市民参加のワークショップを6回開催しています。その強力な後押しと財源確保としての19億円です。

「緑のまち」 2017年 4月号より

池や小川のつくり方が気になります。コンクリートや石組みではなく、見えない所にビオトープ用のゴムシートなどを張ってその上に土をかぶせて水生植物が自然に生えるような岸边を是非とも実現したいものです。

■編集後記■ 前回の発行から1年が経ってしまいました。コロナ禍で地域の活動も難しい状況です。そんな中でも今年もオオタカの雛は元気に巣立ち、また親鳥も活動中です。